



## 平成23年度 決算概要

平成23年度の決算状況についてお知らせします。

### 1 総括事項

平成23年度につきましては、米沢市立病院や公立置賜総合病院との一層の医療連携の推進と機能分担を図ると共に、げんき館に併設された健診センターと一体となり健診事業に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、平成23年度の収益の状況につきましては、公立高畠病院改革プランの計画数値をほぼ達成することができました。

また、前年度に引き続き児童・生徒へのインフルエンザワクチンや子宮頸がんワクチンの予防接種につきましても、公立高畠病院を中心とした町内診療機関による予防接種体制を構築し、的確に対応してまいりました。

診療体制につきましては、小児科常勤医師の招聘が実現し、小児科外来の再開と入院への対応が可能となりました。

### 2 収支の状況（消費税除き）

入院収益・外来収益ともに前年度を上回り、総収益で対前年比87,178千円の増収となりました。

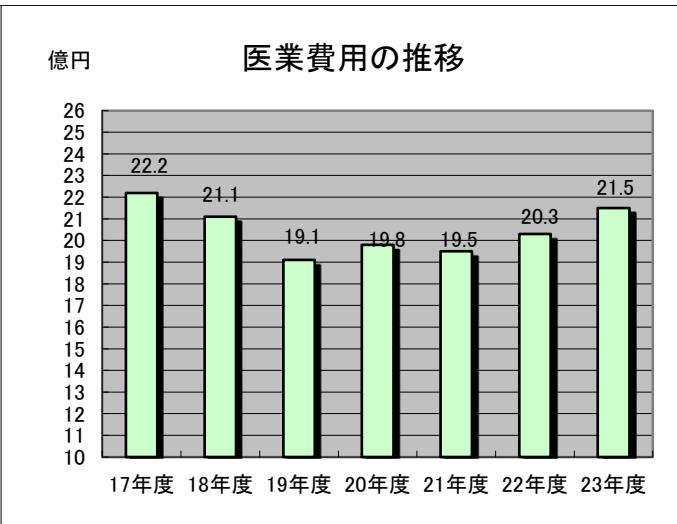
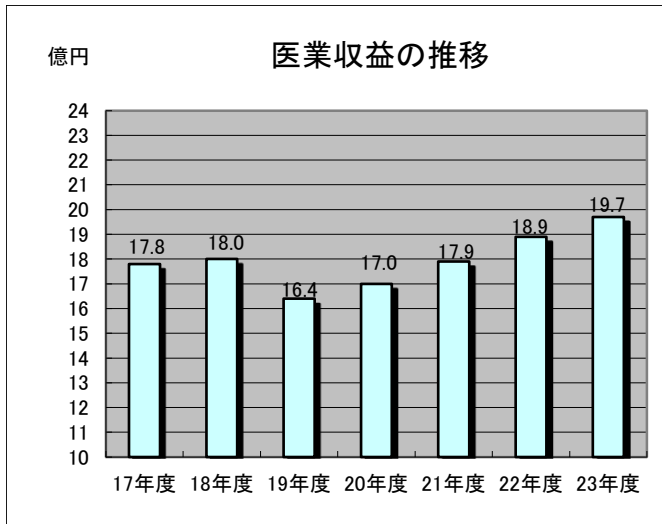
一方費用では、材料費の絞り込みや経費の削減に努めて参りましたが、総費用で対前年比111,196千円の増となりました。

総収支では前年度より24,018千円悪化したものの、何とか11,376千円の純利益を計上することができました。

（単位：千円）

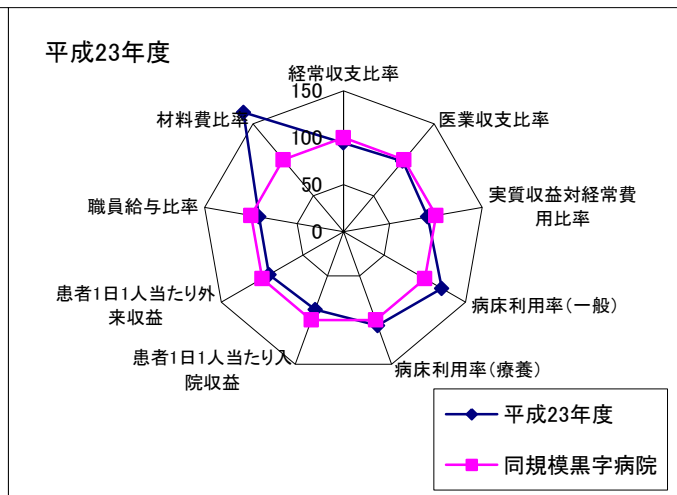
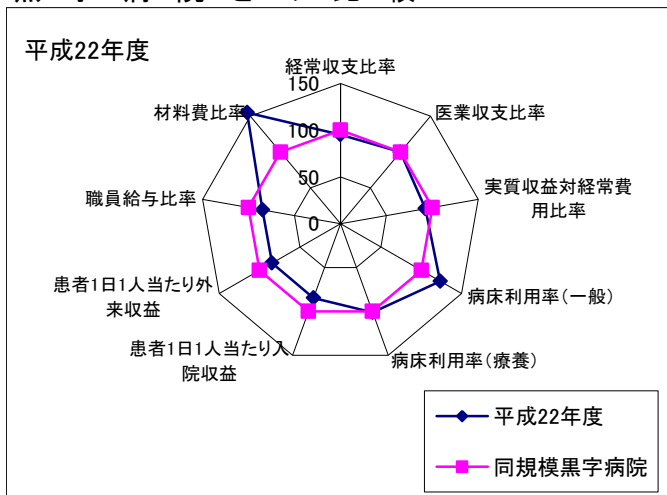
項 目		23年度	22年度	前年比
医 業 収 益	入 院 収 益	1,117,686	1,069,227	104.5%
	外 来 収 益	554,328	552,515	100.3%
	そ の 他	294,634	270,734	108.8%
医 業 外 収 益	負 担 金	163,089	168,414	96.8%
	そ の 他	103,513	85,692	120.8%
特 別 利 益	特 別 利 益	73,194	72,684	100.7%
総収益		2,306,444	2,219,266	103.9%
医 業 費 用	給 与 費	1,134,715	1,177,539	96.4%
	材 料 費	206,379	211,522	97.6%
	経 費	592,459	423,293	140.0%
	減 価 償 却 費	212,770	210,041	101.3%
	資 産 減 耗 費	1,920	6,230	30.8%
	研 究 研 修 費	3,185	2,898	109.9%
医 業 外 費 用	医 業 外 費 用	142,171	150,423	94.5%
特 別 損 失	特 別 損 失	1,469	1,926	76.3%
総費用		2,295,068	2,183,872	105.1%
総収支		11,376	35,394	32.1%





### 3 経営指標等

#### 主要指標の類似病院及び類似黒字病院との比較



※同規模黒字病院経営指標(平成22年度実績)の平均値を100とした場合の当院の平成22年度・23年度それぞれの実績との経営指標数値の割合を示したものである。

※当院及び黒字病院の経営指標数値が類似黒字病院の平均値を上回っている場合(職員給与比率及び材料費比率については下回っている場合)に類似病院の線の外側に表示される。

(単位: %、円)

項目	平成22年度	平成23年度	増減	改善方向	類似黒字病院
経常収支比率	98.4	97.4	△ 1.0	↓	103.2
医療収支比率	93.2	91.4	△ 1.8	↓	93.3
実質収益対経常費用比率	81.0	79.9	△ 1.1	↓	87.8
病床利用率(一般)	92.2	90.2	△ 2.0	↓	74.7
病床利用率(療養)	84.1	88.4	4.3	↑	83.2
患者1日1人当たり入院収益	25,139	26,202	1,063	↑	29,712
患者1日1人当たり外来収益	7,233	7,818	585	↑	8,555
職員給与比率	62.2	57.7	△ 4.5	↑	52.7
材料費比率	11.2	10.5	△ 0.7	↑	17.4

※改善方向については平成22年度と比較して↑が改善、↓が悪化したことを示している。

### 【収支構造】

○経常収支比率  $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上あることが望ましい。

○医業収支比率  $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上あることが望ましい。

○実質収益対経常収支比率  $(\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{経常費用} \times 100$

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上あることが望ましい。

### 【収入構造】

○病床利用率  $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。

○患者1人1日当たり入院収益  $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$

○患者1人1日当たり外来収益  $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要となります。

### 【費用構造】

○職員給与比率(職員給与対医業収益比率)  $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$

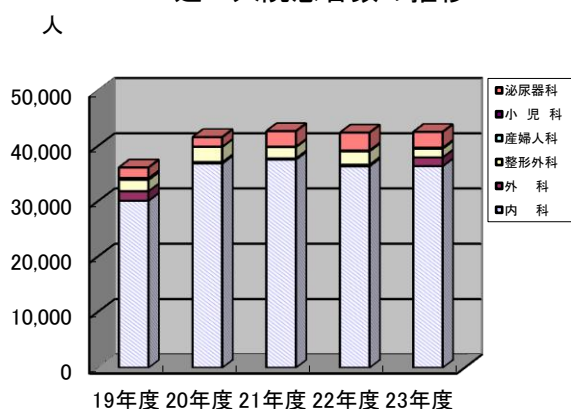
病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。(職員給与費には退職手当負担金、児童手当を含まない。)

○材料費比率(材料費対医業収益比率)  $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

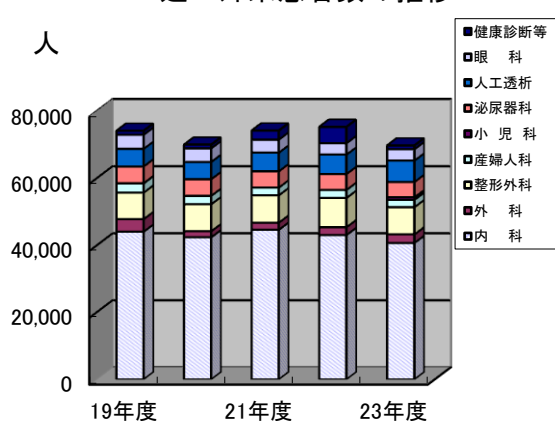
病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウエイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

#### 4 患者数の推移

延べ入院患者数の推移



延べ外来患者数の推移



(入院)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	30,212	36,942	37,655	36,456	36,463
外科	1,716	256	234	269	1,597
整形外科	2,052	2,757	2,022	2,434	1,571
産婦人科	337	28	84	167	160
小児科	0	0	0	0	34
泌尿器科	1,906	1,743	2,806	3,206	2,832
合計	36,223	41,726	42,801	42,532	42,657

※当日退院患者含む

(外来)

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
内科	44,153	42,503	44,738	43,181	40,823
外科	3,756	1,805	2,119	2,326	2,541
整形外科	7,895	8,041	8,147	8,713	8,108
産婦人科	2,737	2,496	2,304	2,391	2,194
小児科	73	0	0	0	761
泌尿器科	4,978	4,960	4,853	4,744	4,550
人工透析	5,254	5,142	5,551	5,781	6,367
眼科	4,184	4,050	3,869	3,391	3,393
皮膚科	-	-	974	1,008	1,064
健康診断等	1,178	1,091	2,702	4,855	1,103
合計	74,752	70,794	75,257	76,390	70,904